

釈迦如来像 国宝

釈迦如来・仏陀は金堂の本尊である。像とそれを包み込む光背は、どちらも8世紀につくられたもので、平安時代（794～1185年）の初期の職人の技術の高さを示している。仏陀の像はカヤの一木造りである。その写実的で、流れるような赤い衣は、漣波式と呼ばれる様式でつくられている。そして、この衣の表現は特に「室生寺様」と呼ばれている。研究者たちは、この像はもともとは医と癒しの仏陀である薬師如来としてつくられたものだと考えている。光背には薬師如来を含む、東方にある七つの浄土(仏国土)の教主たちが描かれているほか、「宝相華」と呼ばれる花の文様と蔓も描かれている。